

蔵出しお宝ニュース

— 第 2 号 —

三原市歴史民俗資料館では、本年度より所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。本紙では、資料館内で長らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と、行事の案内・紹介などを随時行って参りたいと思っております。

三原浅野家 定紋付の袴 見つかる

連日収蔵庫内の資料の整理を進めていますが、行李の中から三原浅野家定紋付の袴が見つかりました。三原浅野家は広島藩 42 万石・浅野家の親戚で、代々筆頭家老を務め、三原城主で 3 万石を領しました。紋所は藩主の名代を務めるなど、公的な場では丸に違い鷹の羽の紋を付けることがあったようですが、三原浅野家の定紋は杵きねです。一般的な杵の紋とは異なり、杵の腰の部分こしが剣形になっているのが特徴です。

袴は現在のスーツのようなもので、男性の礼服です。麻製が最上とされ、一見無地に見えますが小紋の柄が表生地に染められています。紋所は肩衣かたぎぬの背に 1 つ、胸に 2 つ、袴はかまの腰板こしに 1 つ付きます。



三原浅野家が幕末期に作った替紋に日月がありますが、この紋は昭和 40 (1965) 年 4 月 11 日に三原八幡宮で行われた三原ゆかりの佐分利流さぶりりゅう槍術・信拔流居合剣法しんぬきりゅういあいはんぼうの奉納演武を撮影した写真に写っています。白地に黒で幕に大きく染められています。

袴と佐分利流槍術・信拔流居合剣法の古写真パネルを、1 階ロビーの「蔵出しお宝ミニ展示」コーナーで公開いたします。



- (上) 三原浅野家
定紋付 袴
- (左) 佐分利流槍術
- (右) 信拔流居合剣法

季節の花と花入 盛りだくさん

資料館内には、専門解説員の仁田峠典子先生の手によって季節の花が活けられています。この時期は朝鮮ちょうせんあざみ薊が見頃とのことです。花入は資料館所蔵の資料を用いています。江戸時代のあぶみ鑑や、餅などの食べ物もちを運ぶ際に使われた行器ほかいが特に人気でした。先日まで小早川隆景像・末近信賀像を展示していた時には格調高く、唐銅からかねの花入を使用しました。

また、昔は通徳利かよいどっくりと呼ばれる焼物の容器が酒屋などで用いられていました。これは各酒屋などが作らせたもので、屋号や酒銘が書かれています。酒屋と得意先を行ったり来たりする徳利のため、この名がついています。整理棚を手入れ中、かつて西町にあった脇酒造場の通徳利で、残念ながら胴が割れたものが見つかり、これもうまく花入に利用しています。割れた部分を美しい花が埋め合わせ、野趣あふれる大変風雅な様子となりました。

資料館にお見えの際は、ぜひ季節も感じてください。



脇酒造場 通徳利

行 事 案 内

夏休み子ども体験講座

第1回「手ぬぐいを染めてみようー染色を学ぶー」

と き 平成24年7月25日(水) 13:30~15:00

ところ 三原市歴史民俗資料館

内 容 染色の歴史を学び、さらしを使って手染めの手ぬぐい作成を体験しよう。

材料費 100円(個人負担)

第2回

「みやびな遊び・投扇興とうせんきょうーみんなセンスが良いですねー」

と き 平成24年8月7日(火) 13:30~15:00

ところ 三原市立中央図書館

内 容 扇子の歴史を学び、扇子を用いる遊びの投扇興大会を行い、日本のみやびな文化を紹介する。

参加費 無料

参加できる人 小学校4~6年生

参加できる人数 各20名(先着順)

申し込み方法 7月20日(金)までに、三原市立中央図書館(0848-62-3225)に電話でお申し込みください。

おき どころ しゅん じゅう 置 床 春 秋



掛物 短冊 川口土芝 筆

うろ多へて 月見る泉夏乃

遊ぶべか遍可奈 土芝

(川口土芝は江戸後期頃の三原ゆかりの俳人です)

花入 夜行員やこうがい

花 季のもの

発行 平成24年(2012)7月6日

〒723-0015 三原市円一町2丁目3-2

(三原市立中央図書館 北隣)

TEL 0848-62-5595

三原市歴史民俗資料館 山崎愛一郎 編集